

## 第2部 環境配慮事項

環境配慮事項とは、事業を実施する地域や事業の特性に応じて取り組むべき具体的な環境配慮の内容です。

### 第1章 地域特性別環境配慮事項

地域特性区分毎に、求められる環境の例（「生物多様性ふくおか戦略」より抜粋）、地域を特徴づける環境要素の状況、事業の実施に伴いチェックすべき事項を示しています。事業実施予定地の地形や土地の利用状況などにより最も適している地域特性区分を選択して環境配慮に取り組んでください。

#### 1 海洋域

博多湾、玄界灘（玄界島周辺～志賀島周辺～海の中道・奈多・三苦の北側海域、小呂島周辺）に特徴づけられる地域です。

波穏やかで内湾的な性質の博多湾は、中枢港湾として九州の経済を支える一方で、閉鎖性の高さから特に水質の悪化が懸念される地域です。航路浚渫や埋立などの事業では、水環境への負荷を極力抑える配慮が必要です。

対馬海流が流れる外洋的な性質の玄界灘では特に、藻場や魚介類など海洋生態系への配慮が必要です。

##### 《求められる環境の例》

- ・博多湾の水質・底質は良好に保たれ、新鮮で質の高い藻類など含めた湾内の漁業生産品が市内外で流通している
- ・韓国や中国、さらには太平洋諸国などの関係国との連携が図られ、長距離を移動・回遊する魚類などの生息環境の改善が進んでいる
- ・水産資源などの現存量が科学的・客観的に把握されるとともに、それらのデータを基に、漁獲量をはじめとする国際法などに則った持続可能な漁業が行われ、各国の水産資源が適正に確保されている
- ・生態系に影響を与える有害物質等の流出による海洋汚染の防止などが進むほか、各国が気候変動防止の取り組みを積極的に行うことで、海洋生物への影響が最小限に抑えられ、資源管理型漁業が行われている


※「生物多様性ふくおか戦略」より抜粋



写真 海洋域

## 海洋域の環境配慮の要点

環境配慮の対象とする 環境要素	環境配慮の要点
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	河川などを通じて環境負荷が集積しやすい場所です。特に閉鎖性の高い博多湾内では、排出負荷の削減を図り、水質汚濁などの公害発生の防止に努めてください。
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	海生生物や渡り鳥の生息環境として重要です。生息場所の改変を避けるとともに、水質などの保全に努めます。また、博多湾は海の玄関口となっており、外来生物の侵入をいち早く受ける場所です。侵入・定着させないよう努めてください。
人と自然との豊かな触れ合いの確保	船釣りが行われたり、海釣り公園などの施設があります。豊かな自然を保全し、触れ合いの活動の妨げとならないよう配慮してください。
環境への負荷の低減	工食用資材・浚渫残土等の再利用、適正処理に努めてください。

地域特性	
<b>●自然的条件</b>	
地形等	博多湾は平均水深 10.8m, 最大水深 23m, 湾口の幅が 7.7km の閉鎖性が高い浅い内湾。玄界灘は福岡県西部から佐賀県の北岸の海域で大陸棚が広がり対馬海流が流れる。
生物多様性	<p>福岡県のレッドデータブックでは 2014 年から海洋域の生物が記載されるようになり、水産資源として重要な種類が含まれている。水産資源を持続的に利用していくために、資源管理とともに生息・生育環境の保全が重要と考えられている。また、繁殖期以外の長い時間を海上で過ごす海鳥の数種が福岡市の近海に生息している。</p> <p style="text-align: center;">＜海洋域を特徴づける貴重・希少生物＞</p> <p>魚類：イカナゴ、トラフグ、クエ</p> <p>貝類：リシケタイラギ、オオノガイ</p> <p>植物：アマモ、エビアマモ、スギモク</p> <p>鳥類：カンムリウミスズメ、アカエリカイツブリ、シロエリオオハム、カンムリカイツブリ</p> <p>空荷で航行する船舶を安定させるためにバラスト水と呼ばれる海水を船に積んで運ぶことがある。荷積み時に放流されるバラスト水に含まれる甲殻類や貝類などの幼生による海中の外来生物問題が懸念される。</p> <div style="text-align: center;">  <p>カンムリカイツブリ</p> </div>
<b>●社会的条件</b>	
生活環境	<p>博多湾では、大型船が入港できるように能古島一大岳間以東で東航路水深 15m を確保するため航路浚渫が行われている。</p> <p>博多湾は公共用水域であり、東部海域、中部海域、西部海域各 3～4 地点で定期的な水質測定が行われている。水質測定結果は毎年福岡市環境局から公表されている。</p> <p>過去の土砂採取による海底の窪地が愛宕沖にあり、海水交換が阻害されて水質が悪化することが懸念されているため、航路浚渫土砂による埋め戻しが行われている。</p> <p>西部海域ではカキいかだによる養殖漁業が行われている。</p> <p>博多湾内では毎年、赤潮や貧酸素水塊の発生が確認されている。</p>
景観・歴史	<p>かつての博多湾は水深が浅く大型船が入港できなかったため、港湾としての利用は 1960 年代以降の航路浚渫により発展した。</p> <p>博多湾内では船釣りが行われている。</p>

環境配慮事項	
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	
大気汚染や水質汚濁などの公害発生の防止	<input type="checkbox"/> 作業機械は良質燃料を使用し、整備点検を適宜行う。 <input type="checkbox"/> 汚水処理施設などによって汚水を適正に処理して放流する。 <input type="checkbox"/> 浚渫や床掘り工事では汚濁防止膜、汚濁防止グラブ枠、汚濁防止カバーなどを設置し、濁りの拡散を抑制する。 <input type="checkbox"/> 浚渫土砂の埋立にあたっては、土砂が周辺海域に流出しないように、岸壁・護岸を先行して築造し、埋立地を締め切った後に行う。 <input type="checkbox"/> 埋立工事に伴う余水については、埋立地内に設置した余水処理施設により適正に処理した後、埋立地外へ排出する。 <input type="checkbox"/> 埋立地の地表面への堆砂垣の設置や散水の実施など、工事による粉じん、飛砂の発生・拡散を抑制する。 <input type="checkbox"/> 施設の稼働に伴って発生する騒音・振動、排気ガス、悪臭の影響を軽減するための設備を導入する。
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	
藻場や魚介類などの海洋生態系への影響の軽減対策	<input type="checkbox"/> 濁りの発生が少ない工法を採用するなど、現在の海況や水質の保全あるいは維持のための措置を施し、海生生物、鳥類の生息に必要な環境条件を確保する。 <input type="checkbox"/> 海生生物の産卵期や渡り鳥の渡来時期など、生物の生息条件に影響を与える時期の施工を控える。 <input type="checkbox"/> 浅瀬、磯場、藻場を残した改修・整備など、海生生物、鳥類の生息・生育地の改変面積を極力少なくする。
貴重・希少生物等の生息・生育環境の保全	<input type="checkbox"/> バードサンクチュアリなどの人の立ち入りを制限した生物保護地域を設ける。 <input type="checkbox"/> 人工光による影響を軽減するために、灯具の種類、設置数、位置、光色について検討する。 <input type="checkbox"/> 代替地の創造や移植を行う。 <input type="checkbox"/> 生物の生息・生育状況について、供用後のモニタリング調査を実施する。
外来生物対策	<input type="checkbox"/> バラスト水処理設備の設置を行う。
人と自然との豊かな触れ合いの確保	
眺望景観・人と自然の触れ合い活動における資源の保全	<input type="checkbox"/> 埋立地や施設の配置や形状を工夫することによって、海況・海岸地形への影響を極力少なくする。 <input type="checkbox"/> 浚渫する場合は、海況への影響を極力少なくする。
環境への負荷の低減	
浚渫残土等の適正処理	<input type="checkbox"/> 浚渫残土の現場内及び他工事での活用、再資源化などによる再利用を推進する。